

生活福祉委員会会議録

平成24年1月26日

10時00分

開 会

10時20分

閉 会

網 走 市 議 会

午前10時00分 開会

○空委員長

おはようございます。

ただいまから生活福祉委員会を開会いたします。

まず議件に入ります前に委員の皆さんに報告申し上げます。1月6日付で古都議員が総務文教委員会より生活福祉委員会に所属変更となりましたので御承知おき願います。

早速、一言、古都委員のほうからごあいさつ願います。

○古都委員

今、御説明あったとおり1月6日付で総務文教委員会からこちらの生活福祉委員会に所属することになりました。

今後とも研さんを重ね、まちのために尽くしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○空委員長

本日の議件につきましては1件でございまして、網走市の次期ごみ処理施設等の整備計画についての諮問についてでございます。

理事者より早速説明を願います。

○後藤生活環境課長

次期ごみ処理施設等の整備計画についての諮問について、私のほうから御説明いたします。

平成22年度に網走市一般廃棄物処理基本計画を策定し、今後のごみ処理のあり方について、第1に排出抑制、第2に再生利用の促進、最後に残ったものは環境に配慮した最終処分をするという基本的な方向を定めてまいりました。

現在使用しております八坂最終処分場につきましては、現在の排出量の推移においておおむね4年程度で満杯になると推測しております。

以上のことから、次期ごみ処理施設等の整備を進める必要があり、このたび市長の私的諮問機関である網走市廃棄物減量化等推進懇話会に網走市の基本的な考え方を示し、審議、検討をいただき答申をお願いするものでございます。

資料1号をあわせてごらんください。

懇話会は1月31日火曜日に開催することとしておりまして、当日、市長より資料1号に添付して

おります諮問書と2ページ目に掲載しております諮問事項をもって懇話会に諮問いたします。

諮問事項は、1、資源物の分別品目について、2、施設整備計画について、3、建設予定地についての3項目についてでございます。

懇話会資料の1ページをごらんください。資源物の分別収集品目についてでございます。

平成22年度に策定いたしました網走市一般廃棄物等処理基本計画に基づき、容器包装リサイクル法に定めた品目と一般ごみの組成割合の中で重量比割合が高い生ごみを分別するものと考えております。

分別区分は、現在、資源物としてカン類、びん類、発砲スチロール・白色トレイ、ペットボトル類、紙類、ほかに有害ごみ、食用廃油、古着・古布類としております。これに資源物としてプラスチック製容器包装と生ごみを追加していく考えでございます。

2ページの資料1には平成23年度ごみ質調査をした結果をグラフ化しまして容量比、重量比を家庭系及び事業系に分けて掲載をし組成割合を示しております。

プラスチック類は容量比で家庭系、事業系ともに40%を超え、生ごみは重量比において家庭系、事業系ともに38%を超え、非常に大きな割合を示していることがわかりいただけます。

下段には、現在の分別品目とこれからの分別品目の一覧とその処理施設を案として示しております。プラスチック製容器包装は圧縮梱包し、容器包装リサイクル協会を通じ、再商品化や製鉄所などの高炉助燃剤として再使用を考えています。生ごみについては堆肥化をし、公共施設や畑地等の地力増強剤としての利用を考えております。

次に3ページでございます。施設整備計画についてでございます。

資源物処理施設のリサイクルセンターは平成10年度から操業を開始し、機械の老朽化が進んでいることや、新たな分別品目を追加することから効率的かつ効果的な処理施設として同一建設していく考えでございます。なお、生ごみの堆肥化施設

は別棟としていく考えでございます。

資源物、生ごみを分別した後の残った一般ごみについては、これまでと同様の破碎処理をして最後に埋め立て処分をするという方法を考えております。

焼却炉等の中間処理施設は、将来の可燃ごみ排出予想量が広域地区を含めても、24時間の連続運転が難しく、また熱や電力回収が期待できない。さらに建設費及び施設運営維持管理費を勘案すると、財政的に大きな課題となることが推察できます。

これまでの安定的かつ安全に稼動することができる破碎処理施設等を採用することを考えております。

下段には、これらごみ処理施設の整備スケジュールを掲載しております。

平成24年度より建設予定地の調査、基本設計を進め、平成25年度から26年度の2カ年度においてリサイクルセンターと堆肥化処理施設の実施設計と建設工事を進めます。それらの施設は平成27年度より供用開始の予定をしております。これにより現在使用している最終処分場の延命策が図られ、平成25年度より平成28年度までの3カ年度において最終処分場の実施設計と建設工事を進め、平成29年度には最終処分場の供用開始を予定したいと考えております。

次に4ページの施設整備予定地についてでございます。

施設整備予定であるリサイクルセンター、生ごみ堆肥化施設、最終処分場などが同一地区にあることが効率的であり、その適地については3地区候補地の比較検討を行い、明治地区を選定しております。

5ページの位置図をごらんください。候補地の概要を御説明いたします。A候補地、明治地区は約27万平方メートルで隣接市有地と合わせて最終的には約29万平方メートルとなります。予定地全体の92%が民地で、そのうち原野が約8%、山林は92%でございます。B候補地、豊郷地区は約30万平方メートルで民地が100%でございます。民地

のうち約23%が農地で山林は77%でございます。C候補地は八坂地区の現処分場の隣接拡大地を想定しております。約30万平方メートルで民地が100%です。民地のうち約14%が農地で山林は86%でございます。これらの候補地を比較検討しまして4ページの比較検討表に記載しております。

距離については市街地から建設予定地までの運搬距離についての検討をしたものでございます。上下水道は施設設置予定地までの上水道、下水道の整備可能性について検討したものでございます。接続道路は施設整備予定地までの整備状況を検討したものでございます。用地取得は予定地の現在の使用状況を確認し、取得のための許認可の必要性、時間的な検討をしたものでございます。周辺環境については予定地周辺の土地利用状況や既存施設の有無を勘案したほか、将来的な土地有効利用の可能性を検討したものでございます。これらの検討内容を総合的に判定いたしまして明治地区を最適地と判断しております。

以上の内容を説明しながら次期ごみ処理施設等の整備計画についての審議を懇話会にて進めてもらうことで考えています。2月中旬までに3回ほどの開催をお願いをし、意見を集約していただく予定でございます。審議終了後は答申をいただき、その結果を生活福祉委員会にも報告をしまいたいと考えています。私のほうからは以上でございます。

○空委員長

ただいま諮問につきましての説明がございました。網走市廃棄物減量化等推進懇話会に諮問するというので、今説明をいただいたということは、これは白紙諮問ということではなくて、今の説明を付して諮問するということになるわけでありまして、ただ委員会としては、きょうこの説明を聞いた中で細部にわたっての質疑というのは、まず諮問することについての皆さんの御理解と、答申を受けてからの実質的な審議という形にならなければならないだろうと、委員長としてこのように考えておりますので、基本的な部分で今の説明について、この際聞いておきたい部分があればお受

けしたい、このように思いますけれども、ございますか。

○松浦委員

諮問をするということですから、質問をどこまでしていいのかという点では悩ましいところがありますが、基本的に国が推進しているのは焼却とか溶融といった形で補助金を出していますけれども、今回こういう形を、最終的には埋め立てという方法でやるということですから、国の補助金等については多分ないのだろうと思うのですが、その辺はいかがか御説明願いたいと思います。

○後藤生活環境課長

今のお話は循環型社会に対する交付金のお話だと思いますけれども、網走市がこの計画に基づいて埋め立て処分をするということで、環境省が定めております交付金の対象になるかどうかというのは、今後、北海道や環境省と詳細の協議を必要としておりますけれども、環境省が定めております可燃物、これをいかに分別するかによっては交付金の対象にもなり得るのではないかと思いますので、その詳細について詰めていきたいというふうに考えております。

○松浦委員

説明にあったように、やはり焼却とかそういった処理になれば相当事業費もかかるということは、ここ数年、生活福祉委員会としても行政視察をする中で痛感したところです。

だからやはり、私は、焼却というのは網走の財政規模からするときわめて困難であるというような思いをし、委員会の中でもそのような方向が出されています。そういう点では、それにかわる何かいい方法があるかと言えば、なかなか見つからない。斜里町などでも今やっているようなのですが、その辺での検討などはどのようにあって、このような結果になったのか、その辺簡単にでも説明していただければと思いますが、いわゆる高温高压方式ですとか亜臨界水処理だとか、まだ技術的にはあるのだけれど、実用化がまだ十分なされていないというのがあるので、その辺の検討はどの程度されたのかと思ひまして。

○照井市民部長

今、松浦委員がおっしゃったとおりいろいろな方法がございます。私どもといたしましては、技術的に発表されているものはあるのですが、実績、効果がないというのが1つです。先ほど斜里町のお話もいただいたのですが、高温高压の方式だと思うのですが、その方式もまだ実際に稼動した実績がないというのが現実でございます。

懇話会の中でも白老町に視察に行ってみてきたのですが、なかなか今始めているのですが、あの条件のいいところでさえもまだ課題があるということなどを考えますと、今後網走市が導入をして成功するかという自信がないというのが現状でございます。それが1つとですね、もう1点は、行財政改革の中でこの計画が入ってきますので、一番コスト的にも安くて、全国的にも使われている焼却炉で試算をしました。その結果、やはりかなりのコスト負担がかかるということで、財政的に非常に圧迫されるということがございまして、現状ではなかなか難しいだろうという判断で、こういう方式で行くということを定めたものでございます。

○松浦委員

その辺の経過はわかりました。

私自身も同じ考えでありますので、その辺は理解しました。

理解はしたのですが、今後のこととして、例えば当面こういう形でやっていくと、しかし、さまざまな技術は今日進月歩で進んでいるという中であっては、例えば途中で経費としても比較的安く済むというような新たな技術が出てくる可能性もあると思うのですが、そのときは切りかえるというような方法も視野に入れていると理解してよろしいですか。

○空委員長

松浦委員、今回は今説明のあった、これをもって諮問をしたいということですので、答申後に今の質問等を議論する場所が当然出てくると思ひますので、今回は基本的な部分だけにとどめておいていただきたいと思います。

答申が出る前に委員会が議論してしまうと、ちょっと順序がまずくなると思いますので。

皆さん方でほかに何かありませんか。

○古都委員

この表を見ていると、ペットボトルの処理が圧縮、プラスチック製容器包装も圧縮という、圧縮した上で埋め立てのほうにしていると思うのですが、容量比でどちらもプラスチック類が40%を超えている大容量の中で、リサイクルにかけるほうが逆にお金がかかってしまうというお話を以前伺ったと思うのですが、将来的には容量比でいうところの大きな割合を占める中で処分場の土地の中で埋め立てるという部分も大きく占めてしまうと思うのですが、その場合の費用対効果も考えた上で埋め立てをしていったほうがいいのかという判断なのでしょうか。

○後藤生活環境課長

ペットボトルの処理については、この表でいきますと圧縮ということですので資源化のほうに回っています。

それから費用対効果というお話もありましたけれども、基本計画で基本的な方向を定めているということもございまして、排出抑制、それから再生利用、再使用を基本的に考えています。

それが循環型社会を目指す上で最初の入り口であって一番重要なことであろうということでございますので、最終処分場と資源物などの費用対効果も検討は当然必要だと思いますけれど、基本的な姿勢としてはやはり再使用、再生利用を目指すということを念頭において考えていくべきと思っています。

○古都委員

わかりました。私の勘違いでした。

○空委員長

懇話会の人数というのは何名ですか。

○後藤生活環境課長

現在の懇話会は平成22年度に立ち上げて12名の委員の方で構成していただいておりますが、今回の処分施設等の整備につきましては、さらに有識者といたしまして6名の方に助言者という形

で参画をしていただいた中で審議をしていただくというふうに考えております。

○空委員長

トータル18名ということですか。

○後藤生活環境課長

はい。

○空委員長

他になれば、諮問するという部分については可とするということで理解はできるのではないかと思います。

答申を受けた時点で再度、皆さん方に御議論をしていただきたいと思います。

以上で本日の委員会の議件につきましては1件ということですから、せっかくの機会ですので委員の皆さん他に何かございますか。

(「なし」の声あり)

○空委員長

理事者の皆さんございますか。

(「ありません」の声あり)

○空委員長

なければ以上をもちまして本日の生活福祉委員会を終了させていただきます。

大変御苦労さまでした。

午前10時20分 閉会